World Karate Federation
General Secretary Office

NEWSLETTER

Vol.115

9th, October 2026

ブリスベン2032 オリンピック情報
「追加種目・競技プログラム」について

掲題実施種目・競技については、IOCおよびBOCOG（ブリスベン2032組織委員会）からは未だ発表はありません。

ここで昨年６月に就任したIOC Kirsty Coventry会長が掲げる改革案 **”Fit for the Future”** ― Olympic Movementの将来像を見据えた大胆な改革案について、実施種目・競技選定に関する主要部分の経緯と現状を振り返ってみたいと思います。

（1）既存の「オリンピック中核種目」という概念・用語の廃止。

（2）ブリスベン2032追加候補は、東京2020、パリ2024、ロサンゼルス2028で採用された合計10種目・競技に限定された。
この段階で**空手は事実上ショートリスト入り**したものと理解できる。

（3）（既存）中核種目と追加候補は同一基準に基づき評価され、中核下位群と追加上位群は入れ替えられる。

（4）（3）に基づき、さらにIF単位の**「種目」（Sport）ではなく**細分化された**「競技」（Discipline）単位で削減・追加**され、より時代に適合した柔軟かつ効率的なプログラムが策定・実施される。

全プログラム決定は本年末～2027年春頃と想定されます。今後も状況が判明次第逐一発信してまいります。

空手のオリンピック復帰に向けたWKFの活動

こうした中、われわれWKFは愛知・名古屋2026アジア競技大会をはじめとするさまざまな機会を捉えIOCおよび各国のオリンピック関係者との対話を積極的に進めています。

JOC 橋本聖子会長と会談

愛知・名古屋2026アジア競技大会の開催期間中、WKFのエスピノス会長は、日本オリンピック委員会（JOC）の橋本聖子会長と会談し、空手のオリンピックへの展望について意見交換を行いました。
エスピノス会長は、空手発祥の地である日本が今後も空手の発展に重要な役割を担うことへの期待を述べ、特に2028年に日本で開催予定の **“Karate World Cup 2028”** は世界最高レベルの空手を発祥の地で披露する重要な機会になるとの考えを示しました。



写真：左から
JKF　笹川善弘会長
WKF　奈藏
JOC　橋本聖子会長
WKF　アントニオ・
　　エスピノス会長

IOC選手委員 Soraya Aghaei氏と会談



写真：左から　IOC選手委員会　ソラヤ・アガエイ委員、
　　WKF　アントニオ・エスピノス会長、WKF奈藏

またエスピノス会長は、IOC選手委員会（IOC Athletes' Commission）のSoraya Aghaei委員とも会談しました。
Aghaei委員はメダル授与のため豊橋の競技会場を訪れ、アジア競技大会で繰り広げられた空手競技を間近で観戦しました。
エスピノス会長は、空手がAghaei委員の母国イランのみならずアジア各国で広く親しまれているスポーツであることを紹介しました。今回の観戦を通じて、空手の魅力やその精神、そして総合競技大会における空手の存在意義を直接伝えることができました。

世界空手連盟　事務総長
奈藏稔久
連絡先
nag@wkf-gs.com
090-1105-1457